



Title	＜新刊紹介＞寺島樵一著『連歌論の研究』
Author(s)	渡邊, 志津子
Citation	語文. 1996, 66, p. 18-18
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/68896">https://hdl.handle.net/11094/68896</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 〈新刊紹介〉

寺島樵一著『連歌論の研究』

渡邊志津子（本学助教教授）

本学の卒業生であつた寺島樵一氏の遺稿論文集である。

寺島氏が病没されたのは、平成七年二月二十日、阪神大震災の直後であつた。享年四十八才。亡くなつた時、本務校は甲南大学であつたが、本学にも非常勤講師として出講しており、氏の後輩にあつた学生たちが、最後の教え子の中に数えられることとなつた。不思議な「縁」を感じざるをえない。

氏と前後して本学に学び、公私に渡つて親しかつた者が中心となり、一周忌に遺稿をまとめて本書が成つた。氏の論考、文章を五部分に分けて配列し、本学における恩師であつた田中裕先生の序文と、友人の藤田真一氏の追悼文を併せ載せている。

第一部・第二部に収録されている連歌についての論考は、著者の研究の根幹をなすものであり、本学において又卒業後も著者が追求し続けたテーマであつた。また、和歌や連歌師の古典研究にも目は向けられた。それが第三部所収の論考である。さらに第四部におけるアメリカの連歌紹介や日本研究の紹介は、同国に長い留学経験を持ち親しみの深かつた寺島氏ならではのものである。第五部は、詩歌についての文章であるが、研究と深い考察をふまえ、読者にわかりやすく説かれている。これらはいずれも、著者の重厚な研究の上に成つたものといえよう。

本書の発刊に際し、国語国文学会会員に多く御支援を賜つた。発

起人の一人として深くお礼申し上げたい。

（一九九六年二月、和泉書院、三二〇頁、定価一〇、三〇〇円）

『宮地裕・敦子先生古稀記念論集 日本語の研究』

（宮地裕・敦子先生古稀記念論集刊行会編）

宮地裕・敦子両氏の古稀をお祝いする論文集。「古代語研究」（論文一二本）「近代語研究」（同一四本）「謝辞・略歴」「あとがき」「執筆者略歴」から成る。「古代語研究」には、宮地敦子「平安時代までの『まなこ』に関する一考察―孤例の解釈―」、「近現代語研究」には宮地裕「科学・教育・学問 小見」を収める。本会会員の論考も多く収録されている。

（平成七年一月刊、明治書院、六〇七頁、九八〇〇円）

『浪花烟花名録』（大阪大学国語国文学研究室編）

大阪大学附属図書館蔵本の影印・翻刻・解題。従来不明であつた大坂の遊所についての、まとまりと詳しさを持つ細見。大坂遊所資料として、『浪華なまり』と共に併用されるべき内容。本学図書館蔵本は識語及びその体裁から田宮仲宜の自筆で、交遊のあつた大田南畝に贈られたものであることが知られる貴重なものである。

（平成七年四月刊、和泉書院、九九頁、三〇九〇円）